

レジメンcode:	C16-34
適応がん種:	胃癌
レジメン名:	Zolbetuximab + mFOLFOX6
間隔:	2週間

備考

略名	抗がん剤(採用薬品名)	投与量	単位	投与法	投与日
	ビロイ (初回)	800	mg/m ²	点滴[*1]	d1
	(2回目以降)	400	mg/m ²		
L-OHP	オキサリプラチン(エルプラット)	85	mg/m ²	点滴(2時間)	d1[*2]
l-LV	レボホリナート	200	mg/m ²	点滴(2時間)[*3]	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	400	mg/m ²	点滴(全開)	d1
5-FU	フルオロウラシル(5-FU)	2400	mg/m ²	点滴(46時間)	d1

*初回投与は必ず入院で実施すること

[*2]臨床試験では、オキサリプラチンの投与は 最大12回まで とされ、その後 C16-36: Zolbetuximab+sLV5-FU2 を疾患進行又は許容できない毒性まで継続した

*オランザピンが治療前日から服用(糖尿病患者は除く)となるため、あらかじめ処方が必要です

*入院化療時、悪心嘔吐出現時の メトクロプラミド注 1A の医師指示が必要です

【初回投与】

【内服】

day0~4(5日間)

1) オランザピン	5 mg/日
内服	夕食後
	ビロイ投与前日から服用

* 糖尿病禁忌

day2~4

1) デカドロン	8 mg/日
内服	朝食後

【注射】

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	20ml	1 A	ポート確認
2) アロカリス	235mg	1 V	
ガスター	20mg	1 A	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
パロノセトロン	0.75mg	1 V	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	30分

次ページあり

3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15 分
4) 生食	100ml	1 本	
	▶側管①	点滴	ビロイを中断した場合のルートキープ用
5) ビロイ		800 mg/m ²	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml	1 本	6時間以内に投与終了すること
生食	500ml	1 本	6時間を超えた場合は残液破棄
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1]参照
6) 生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
7) オキサリプラチン(エルプラット)[*2]		85 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間
8) レボホリナート		200 mg/m ²	
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	▶側管②	点滴	2時間 主管⑤と同時に[*3]
9) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開
10) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	500ml	1 袋	
	主管⑦	点滴	46時間

〈所要時間 ー〉

day3

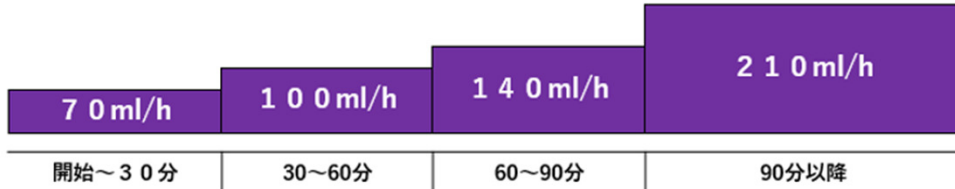
1) 生食	50ml	1 本	
			フラッシュ
2) 生食		10 ml	
			ルートロック

〈所要時間 ー〉

[*1]

初回 悪心・嘔吐に対する投与速度のマネージメント

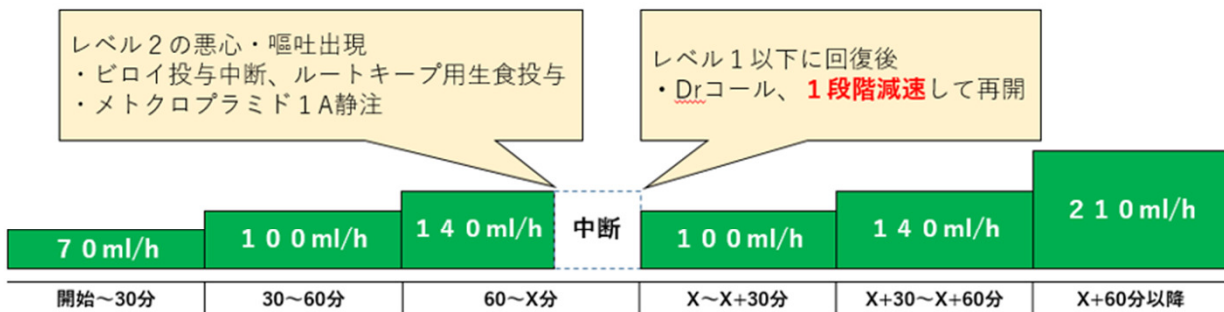
悪心・嘔吐 レベル1以下



* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

次ページあり

【2回目以降】

【内服】

day0～4(5日間)

1) オランザピン	5 mg/日
内服	夕食後
ビロイ投与前日から服用	

* 糖尿病禁忌

day2～4

1) デカドロン	8 mg/日
内服	朝食後

【注射】

day1【ケモセーフ使用】

1) 生食	20ml	1 A	ポート確認
2) アロカリス	235mg	1 V	
ガスター	20mg	1 A	
デキサート	6.6mg	1 V	
デキサート	3.3mg	1 A	
パロノセトロン	0.75mg	1 V	
ポララミン	5mg	1 A	
生食	50ml	1 本	
	主管①	点滴	30分
3) 生食	50ml	1 本	
	主管②	点滴	15 分
4) 生食	100ml	1 本	
	▶側管①	点滴	ビロイを中断した場合のルートキープ用
5) ビロイ		400 mg/m ²	1Vあたり注射用水5mlで溶解
注射用水	100ml	1 本	6時間以内に投与終了すること
生食	250ml	1 本	6時間を超えた場合は残液破棄
	主管③	点滴	投与速度は別表[*1] 参照
6) 生食	50ml	1 本	
	主管④	点滴	15 分
7) オキサリプラチン(エルプラット)[*2]		85 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	
	主管⑤	点滴	2時間
8) レボホリナート		200 mg/m ²	
ブドウ糖液5%	250ml	1 袋	

▶側管② 点滴 2時間 主管⑤と同時に[*3]

次ページあり

9) フルオロウラシル(5-FU)		400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	50ml	1 本	
	主管⑥	点滴	全開
10) フルオロウラシル(5-FU)		2400 mg/m ²	【ケモセーフ使用】
ブドウ糖液5%	500ml	1 袋	
	主管⑦	点滴	46時間

〈所要時間 ー 〉

day3

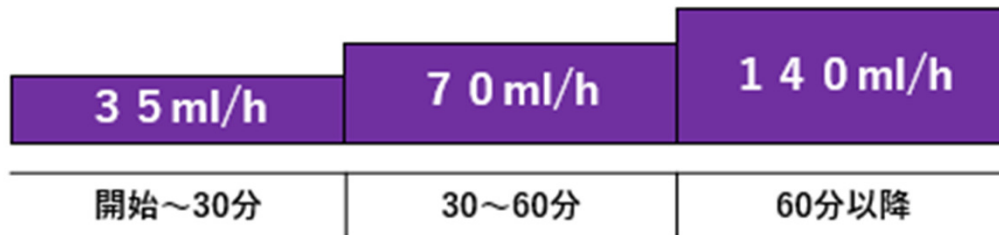
1) 生食	50ml	1 本	
			フラッシュ
2) 生食		10 ml	
			ルートロック

〈所要時間 ー 〉

次ページあり

2回目以降 悪心・嘔吐に対する投与速度のマネジメント

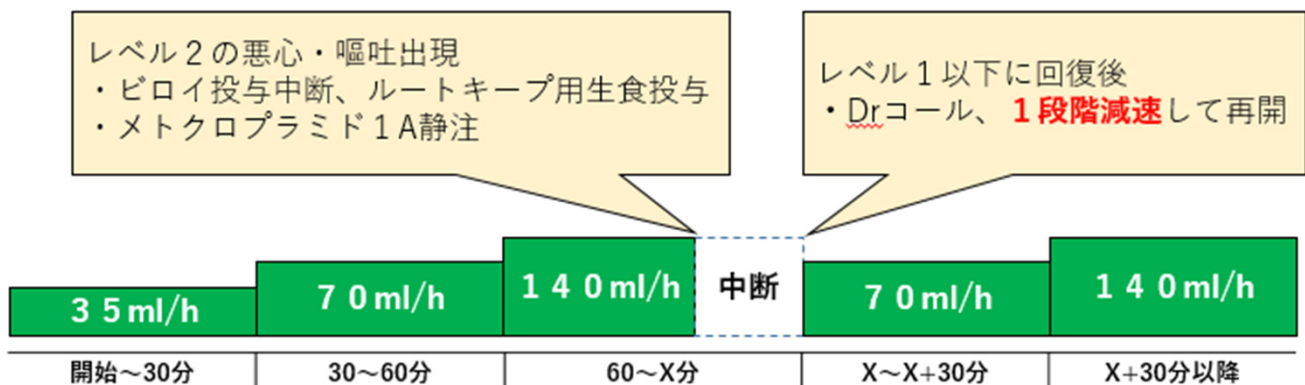
悪心・嘔吐 レベル1以下



* 悪心、嘔吐 レベル2出現時

- ①ピロイの投与を中断。ルートキープ用の生食を投与しメトクロプラミド1A 静注。
- ②レベル1以下に回復後、医師へ再開の指示を確認し、**症状出現の1段階前の速度から再開**する。

悪心・嘔吐 レベル2出現時 (中断例)



	レベル1	レベル2
悪心	吐き気はあるけど食べられそう	吐き気があって食べられない
嘔吐	なし	あり

大切なのは患者さんの感覚

「中断希望」や「症状でつらい状態」→レベル2と判断

【文献】

国際共同第Ⅲ相試験【(SPOTLIGHT試験) Lancet.2023;401(10389):1655–1668 (PMID:37068504)】

【適応】

CLDN18.2陽性かつHER2陰性の治癒切除不能な進行・再発の胃癌

【ビロイ】

*希釈後、室温で6時間以内に投与を完了すること。また2～8℃で24時間以内に使用すること。
6時間を超えた場合は、残液を破棄すること。